

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
神経免疫疾患領域における難病の医療水準と患者の QOL 向上に資する研究
分担研究報告書

（課題名） 特定疾患診断基準における MG/LEMS の電気生理検査での境界例の検討

研究分担者 畑中裕己 帝京大学 脳神経内科 病院教授
共同研究者 北國圭一、神林隆道、千葉隆司、小林俊輔、園生雅弘
帝京大学医学部 帝京大学医学部附属病院脳神経内科

研究要旨

重症筋無力症(myasthenia gravis, MG)およびLambert-Eaton筋無力症候群(Lambert Eaton myasthenic syndrome, LEMS) について本邦の現在の診断基準の境界域例について検討する。

A. 研究目的

重症筋無力症 (myasthenia gravis, MG) および Lambert-Eaton 筋無力症候群 (Lambert Eaton myasthenic syndrome, LEMS) について本邦の現在の診断基準の境界域例について検討する。

B. 研究方法

当院筋電図室で MG が疑われた症例、および LEMS と診断された症例の治療前のデータを分析し現在の電気生理学的診断基準に合致するかを検討した。MG 疑いで検査された症例は 2022 年 1 月から 2023 年 6 月まで 84 例、LEMS は 2017 年 1 月から 2023 年 6 月までの 17 例を解析する。

MG は特定疾患申請時に基準となる 2014 年診療ガイドラインより①反復神経刺激法 (repetitive nerve stimulation, RNS) 10%以上で異常、②単線維筋電図(single fiber Electromyography, SFEMG) は 2012 年 Kokubun らの本邦で構築された concentric SFEMG(c-SFEMG)の正常値を参照する。

一方 Lambert-Eaton 筋無力症候群(Lambert Eaton myasthenic syndrome, LEMS) は未だ特定疾患に指定されていないが、2022 年診療ガイドライン改訂時に追加された電気生理検査診断基準を参照する。

（倫理面への配慮）

帝京大学倫理委員会の審査承認後、本学でデータ解析を行う。

C. 研究結果

現行のMGの特定疾患の診断基準のRNSを10%から6%に下げると抗体陰性症例でもさらにMGの検出感度を上げることができるか検討する。

LEMSの新ガイドラインの電気生理検査診断基準の3項目を17例のLEMSがどのくらい満たしているかを検討する。

D. 考察

倫理申請承認後、解析を行う

E. 結論

倫理申請承認後、解析を行い、発表する

F. 研究発表

該当なし

1. 論文発表

1) 執筆者氏名. 論文タイトル. 雑誌名. 巻(号): 頁-頁,年
2)

2. 学会発表

なし

1) 発表者氏名. 発表タイトル. 学会名. 開催年月日.開催場所

2)

G. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

該当なし

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3. その他